



TITLE:

京大広報 No. 504

AUTHOR(S):

京都大学広報委員会

CITATION:

京都大学広報委員会. 京大広報 No. 504. 京大広報 1996, 504: 75-90

ISSUE DATE:

1996-07

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/209263>

RIGHT:

ファイル中には未許諾による非表示部あり.



京大広報

No. 504

1996. 7

目次

〈大学の動き〉

- 平成8年5月博士学位授与式……………76
- 創立記念式典の挙行……………76
- 部局長の交替等……………76
- ストラスブール3大学との学術交流……………77
- 外国人留学生歓迎パーティー……………77

〈部局の動き〉

- 「鈴鹿本 今昔物語集」国宝に指定……………79
- 故高坂正堯大学院法学研究科教授追悼の集い……………79
- 平成8年度文学部博物館春季企画展の終了報告……………80

〈公開講座の終了報告〉

- 第18回文学部博物館公開講座
「江戸期の京画壇」……………80

〈医療技術短期大学の動き〉

- 医療技術短期大学部部長の交替等……………80

〈日誌〉

- ……………81

〈計報〉

- ……………81

〈文化交流〉

- シアトルに滞在して 諏訪 浩……………82

〈保健コーナー〉

- リモコン人間 青木 健次……………83

〈随想〉

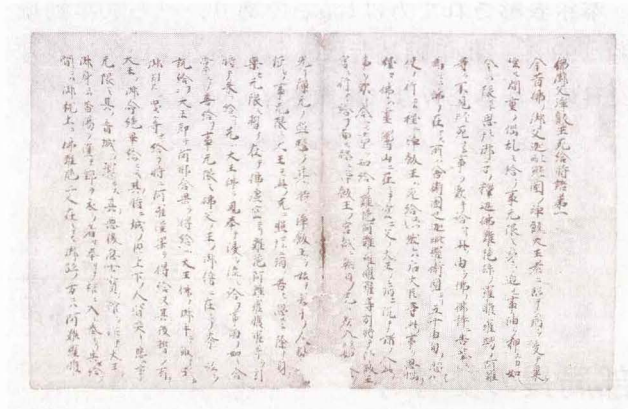
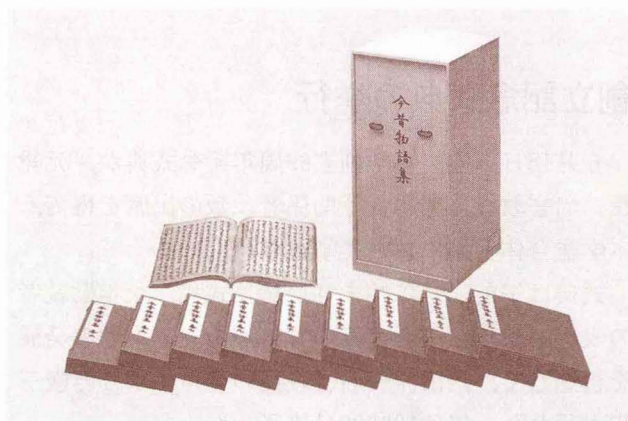
- 実験物理屋の呟き 名誉教授 端 恒夫……………84

〈コラム〉

- 超絶短詩のささやかな輪 篠原 資明……………85

〈資料〉

- 国立大学教官等の定員削減計画に関する
国立大学協会の要望書……………86



「鈴鹿本 今昔物語集」 ー関連記事本文79ページー

〈お知らせ〉

- 「白馬山の家」の夏季開設……………88
- 「白浜海の家」の利用……………89
- 体育館附設プールの夏季利用……………89
- 総合人間学部・人間・環境学研究科事務部の
一部移転のお知らせ……………90
- 百年史編集委員会からのお願い……………90

京都大学広報委員会

大学の動き

平成8年5月博士学位授与式

5月23日(木)午前10時30分から、京大会館において、各研究科長をはじめ総合人間学部長、学生部長、事務局長出席のもと、平成8年5月博士学位授与式が挙行された。

総長から、各授与者に対し学位記が手渡された後、総長の式辞があり、午前11時15分終了した。

本年5月の学位授与数は、課程博士33名、論文博士39名の計72名であった。各研究科別内訳は次のとおりである。

文学研究科 3名(0名, 3名)
教育学研究科 2名(2名, 0名)
理学研究科 15名(12名, 3名)
医学研究科 16名(10名, 6名)
薬学研究科 5名(0名, 5名)
工学研究科 18名(4名, 14名)
農学研究科 13名(5名, 8名)

※()内の前の数字は課程博士、後の数字は論文博士を示す

創立記念式典の挙行

6月18日(火)本学創立99周年記念式典が、元総長、名誉教授、部局長等関係者多数の出席を得て、本学総合体育館において挙行された。

式典は午前10時に始まり、総長式辞、永年勤続者の表彰、永年勤続者代表の答辞があり、本学の発展を祈念して、内田洋一名誉教授の発声により万歳三唱が行われ、午前10時30分終了した。

本年表彰された方は155名であり、うち30年勤続者は99名、20年勤続者は56名である。氏名は6月21日の学報第4597号に掲載されている。



部局長の交替等

生体医療工学研究センター長

谷 嘉明生体医療工学研究センター長の任期満了に伴い、その後任として岡 正典生体医療工学研究センター教授(人工臓器学研究部門)が6月8日生体医療工学研究センター長に任命された。

任期は平成10年6月7日までである。



岡 正典教授

ストラスブール3大学との学術交流

本学とフランス共和国ストラスブール3大学との「学術交流に関する一般的覚書」が、平成8年1月23日に交換された。

同3大学との学術交流の推進については、国際交流委員会の答申（関連記事『京大広報』No.363）にそって検討が進められてきたが、このたび平成3年1月23日に交換したストラスブール第一大学との「大学間学術交流に関する一般的覚書」を更新するにあたり、ストラスブール第二大学及びストラスブール第三大学を加えて、3大学と「覚書」を交換することとなったものである。

ストラスブール3大学は、1621年に創立されたストラスブール大学が1968年に行われた高等教育改革の結果、1970年に現在のストラスブール第一大学（ルイ・パストゥール大学）、ストラスブール第二

大学（人文科学大学）及びストラスブール第三大学（ロバート・シューマン大学）に再編されたものである。なお、ストラスブール大学の前身は、ストラスブール・スクールとして1537年に創設され、1566年に改組拡充されたストラスブール・アカデミーである。

ストラスブール第一大学は、自然科学系の総合大学で教員数1,710人、学生数19,246人。ストラスブール第二大学は、人文・社会科学系の総合大学で教員数390人、学生数12,900人。ストラスブール第三大学は、法学を主体とする社会科学系の大学で教員数288人、学生数9,243人。

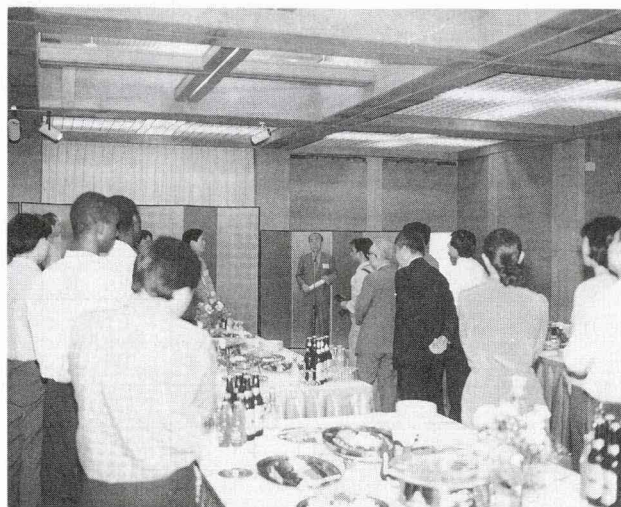
〔注〕 教員数及び学生数の出典は、INTERNATIONAL HANDBOOK OF UNIVERSITIES, 14TH EDITION, 1996

外国人留学生歓迎パーティー

平成8年度入学の外国人留学生歓迎パーティーが、5月30日（木）午後6時から京大会館において外国人留学生、総長及び指導教官等約200名が出席して行われた。

パーティーは、井村総長の挨拶、新入留学生のスピーチ、益川学生部長の乾杯ではじまり終始なごやかな雰囲気の中に午後7時半すぎ閉会した。

なお、平成8年5月1日現在の本学の国（地域）別外国人留学生数は別表のとおりである。



国（地域）別外国人留学生数調

平成8年5月1日現在

	国（地 域）名	学部	大学院		研究 生等	計		国（地 域）名	学部	大学院		研究 生等	計
			修士	博士						修士	博士		
アジア 州 (21)	バングラデシュ		2	11	4	17	ヨーロッパ 州 (18)	ブルガリア		1	2		3
	中国	48	73	129	119	369		チェコ			2		2
	インド		1		1	2		デンマーク			1		1
	インドネシア	2	9	30	7	48		フィンランド			1	2	3
	イラン			3		3		フランス		2	1	1	4
	イスラエル			1	2	3		ドイツ		1	1	15	17
	ヨルダン			1		1		ギリシャ		2	1		3
	韓国	4	34	94	37	169		アイランド			1		1
	マレーシア	13	2	2	1	18		イタリア		2	2	1	5
	モンゴル	1		4	2	7		リトアニア			1		1
	ミャンマー		1	3		4		オランダ				1	1
	ネパール		1			1		ノルウェー				1	1
	パキスタン		3	3		6		ポーランド				2	2
	フィリピン	5	2	7		14		ルーマニア	2		1	3	6
	サウジアラビア		1			1		スペイン		1	1	1	3
	シンガポール	5	1	1	1	8		スイス				1	1
	タイ	1	11	10	10	32		イギリス		1	1	3	5
	トルコ			2	3	5	N I S 諸国 (5)	グルジア			1		1
	ベトナム	1	1	2	4	8		カザフスタン		1	1	1	3
	香港		1	2	1	4		キルギス				1	1
	台湾	1	16	27	20	64		ロシア		1	3		4
	オーストラリア	4	2	1	1	8		ウクライナ		1			1
大洋州 (2)	ニュージーランド	3	1		1	5	北アメリカ州 (7)	カナダ	2	2		3	7
アフリカ 州 (13)	アルジェリア				1	1		コスタリカ		1			1
	カメルーン			1		1		ドミニカ		1			1
	コートジボワール		1		1	2		ジャマイカ				1	1
	エジプト			4	1	5		メキシコ		1	3	3	7
	エチオピア			1		1		ニカラグア			1		1
	ガーナ			1		1		アメリカ		4	7	15	26
	ケニア		1	1	1	3	南アメリカ州 (7)	アルゼンチン	2	1		1	4
	マダガスカル			1		1		ブラジル	1	2	5	2	10
	モロッコ	4		1		5		チリ		1	1		2
	南アフリカ				1	1		コロンビア			2	2	4
	スーダン		1	1		2		パラグアイ		1			1
	チュニジア				1	1		ペルー		2	1		3
	タンザニア			5	1	6		ベネズエラ			1	2	3
	アルバニア			1		1	計 (73か国)		99	194	392	283	968

(注) 1. 国（地域）名は通称による。

2. 国名の並べ方、国および主な地域の各大陸別分類は、国連発行「統計年鑑」（N I S 諸国を除く）による。
(学生部)

部局の動き

「鈴鹿本 今昔物語集」国宝に指定

本年5月、本学附属図書館所蔵「鈴鹿本 今昔物語集」が文化庁より国宝に指定された。

この「今昔物語集」は平成3（1991）年10月8日に、京都市在住の鈴鹿家当主・鈴鹿 紀（おさむ）氏より、当館に寄贈されたものである。この日の夕刊各紙は、この模様を詳しく報じている。

このように、大きく報道されたのは、この資料が「今昔物語集」の現存写本中最古のものであり、始祖本の位置にあることによる。

寄贈を受けたこの貴重資料は、学内外の研究者による検証の上、平成7（1995）年6月、文化庁より重要文化財に指定されている。

「今昔物語集」は、平安時代・12世紀前半（1120前後）頃成立したといわれるわが国の説話文学の代表作といわれ、源 隆国（みなもとのたかくに1004～1077）撰の「宇治大納言物語」（散佚説話集）の別称、同一書または誤り称したという説も伝えられているが確証はない。

一説には、京都・奈良周辺の寺に属する無名の書記僧をもって編者に擬する説もある。なお、「今昔物語」は「今昔物語集」の略称である。

その内容一千余話が、「今（ハ）昔」で起筆され、「……トナム語り伝ヘタルトヤ」で結ばれていることから、「今（ハ）昔（ノ）物語」となる。

構成は、天竺（インド）、震旦（中国）、本朝（日本）の三部からなり、釈迦伝の仏法から奇譚珍聞をも集録する世俗世界へと幅広く展開する。

この度、国宝に指定されたものは、「今昔物語集」

現存31巻のうち、附属図書館の所蔵する巻2、5、7、9、10、12、17、27、29の計9巻である。

明治・大正の文豪・芥川龍之介がこの「今昔物語集」からモチーフを得て「羅生門」、「鼻」、「芋粥」、「偷盗」、「藪の中」（のち「羅生門」として映画化）、「六の宮の姫君」等々の作品を発表している。

文学部・安田 章教授の記事（「静脩」1991. 12）によれば、この本が世に紹介されたのは、大正4年、京都帝国大学文科大学機関誌「芸文」に掲載された鈴鹿三七氏（紀氏の父君）の論文「今昔物語補遺」からといい、この論文によれば、奈良付近の古寺に在ったと想像されるものが、天保年間（1830～43）末頃、鈴鹿家の所有となったといわれている。

「今昔物語集」の伝本は鈴鹿本のほか、東京大学国語研究室蔵本、実践女子大学蔵本、東北大学狩野文庫蔵本、国学院大学蔵本（以上近世末期写本）等々がある。

附属図書館では、学識経験者の指導のもと、平成3年から3年間にわたり、約1,700万円でこの修補を完了した。

この「鈴鹿本 今昔物語集」は5月国宝指定の後、東京国立博物館で公開され、去る5月29日、本館に返却され地下貴重書庫に厳重に保管されている。

なお、現在、附属図書館恒例の秋季展示会の今年度の企画として「鈴鹿本『今昔物語集』国宝指定記念展示会」の準備を進めている。

（附属図書館）

故高坂正堯大学院法学研究科教授
追悼の集い

本年5月15日逝去された故高坂正堯教授の追悼の集いが法学部主催により、6月15日（土）午後2時

から3時まで、法経4番教室において執り行われた。

（法学部）

平成 8 年文学部博物館春季企画展の終了報告

平成 8 年春季企画展が、6 月 1 日（土）終了した。展示期間中の、入館者数は次のとおりである。

期 間	展 示 の 名 称	入 館 者 数				
		一 般	学 生	職 員	特別観覧	計
4 / 23 ～ 6 / 1	企画展「江戸期の京画壇―鶴沢派を中心として―」	人 2,829	人 397	人 357	人 476	人 4,059
	常設展「日本古代文化の展開と東アジア」					

（特別観覧とは学術研究、視察その他博物館運営研究及び施設見学等である。）

（文学部）

公開講座の終了報告

第18回文学部博物館公開講座 「江戸期の京画壇」

公開講座「江戸期の京画壇」が4月27日、5月11日、18日、6月1日の各土曜日（午後1時30分から4時まで）に開催された。

今回の公開講座は、企画展「江戸期の京画壇」で展示された資料を見ながら鶴沢派の京における展開を紹介するものであった。

講義題目、講師は次のとおりであり、50名が受講した。

「狩野派から鶴沢派へ」

文学部教授 佐々木 丞 平

「蕪村派の系譜」

滋賀県立近代美術館館長 石 丸 正 運

「応挙の弟子たち」

京都文化博物館学芸員 田 島 達 也

「幕末期の京都画壇」

京都市立芸術大学教授 榊 原 吉 郎
（文学部）

医療技術短期大学部の動き

医療技術短期大学部部長の交替等

高橋清之医療技術短期大学部部長の任期満了に伴い、その後任として、下野登士男医療技術短期大学部教授（神経生理学）が7月1日医療技術短期大学部部長に任命された。

任期は平成10年6月30日までである。



下野登士男教授

日誌

1996年5月1日～5月31日

- 5月8日 エジプト・アラブ共和国 文化省 Ali Hassan 次官他1名来学，総長及び関係教官と懇談
- 10日 平成8年度京都大学職員研修語学研修（英語・初級コース）第1日（7月16日まで毎週火・金曜日 総40時間）
- 13日 京都大学春秋講義 月曜講義 第1日（以後の日程は，20日，27日，6月3日，10日）

- 14日 評議会
- 15日 国際交流委員会
- 〃 京都大学春秋講義 水曜講義 第1日（以後の日程は，22日，29日，6月5日，12日）
- 23日 学位授与式
- 28日 評議会
- 〃 大学院審議会

訃報

高坂 正堯 大学院法学研究科教授



大学院法学研究科教授高坂正堯先生は，5月15日逝去された。享年62。

先生は，昭和32年京都大学法学部を卒業され，同大学法学部助手，助教授を経て昭和46年教授，平成3年4月同大学院法学研究科教授となった。この間，昭和62年から平成元年まで本学評議員を務められた。

先生は揺籃期の日本の国際政治学を発展・成熟させるにあたって多大の貢献をされた。研究分野は，国際政治理論，戦略論，日本政治外交の分析，近代ヨーロッパ外交史，文明論等，国際政治学のほとん

ど全領域に及んでおり，実証的精神を重んじた深い歴史的洞察を基底とし，現実認識を価値判断に優先させた現実主義の立場に立った分析と政策提言は学界内外に大きな影響を与えた。代表的著作として，『海洋国家日本の構想』，『宰相吉田茂』，『古典外交の成熟と崩壊』，『文明が衰亡するとき』等がある。

また先生は，日本国際政治学会，国際戦略研究所（連合王国）等の理事を歴任され，内外の学界の発展に大きく寄与されると同時に，海外からの留学生を含めた学部及び大学院生の研究・教育指導にも熱心に取り組まれ，各界に幾多の有為の人材を送り出された。

ここに謹んで哀悼の意を表します。

（大学院法学研究科）

久保 熙 名誉教授



本学名誉教授 久保 熙 先生は，5月27日逝去された。享年70。

先生は，昭和27年立命館大学理工学部数学物理学科を卒業，同34年京都大学文部技官に任官，同36年京都大学教養部助手，42年同助教授を経て，55年教授に就任された。平成元年停年により退官され，京都大学名誉教授の称号を受けられた。

先生は，教養部において物理学の授業を担当する

とともに大学院理学研究科において物理学の講義ならびに研究指導を行われた。研究面において先生と先生の研究グループはプラズマ物理学の実験的研究において著しい業績を上げられた。希ガス低温磁気プラズマ中のマイクロ波の負吸収現象の実験的解明などをはじめ国際的評価を受ける研究成果を発表されるなど，プラズマ物理学の分野に多大な貢献をされた。

先生はまた日本物理学会，核融合懇談会など学界の発展に寄与された。

ここに謹んで哀悼の意を表します。

（総合人間学部）

ころにセントヘレンズ火山がある。この山は1980年に水蒸気爆発を起こして山体が崩壊したため、火砕流、土石なだれ、土石流による災害が起こり、東西25km、南北45kmにおよぶ地域の景観が一変した。この地変によって出現したユニークな環境を保全するため、米国議会は1982年、この広大な土地を国立のモニュメントにすることに決めた。現在建設中の1つを加え、3つのビジターセンターを有するこのモ

ニュメントはフォレストサービスによって運営され、見学者は、15年前の地変の生々しさをとどめる景色を前にして、レインジャーの解説を聴き、さらに展示物を見て、自然の営みについての理解を深める。人の手が入るのを極力抑え、研究目的以外の人の立ち入りを制限して、自然環境の回復過程を見守ろうとの方針が貫かれている。

(すわ ひろし 防災研究所助教授)

保健コーナー

リモコン人間

リモコンを操る人のことである。家電が次々とリモコン化され、新たな電子機器も増え、ピッ、ピッと電子音1つで多くの操作ができる。TVでもチャンネルまで体を運ぶ必要もないし、1人1台時代に入ってチャンネル権など意味もなく、気ままにon-off、切り換えも思いのまま。気に入らなきゃ消せばよい。道具は、元来手足の延長であったが、効果が増大すると共に間接度も上った。しかも1人1人が所有する機器も増えた。幼少時より各種の機器に囲まれて育つことから、生活習慣や行動、さらに性格に影響を与えない筈がない。リモコン人間の成立である。気分の変化が早く持続性に乏しい、常に周囲を自己中心的に支配しようとする。効率を重視し、マニュアルを好み、流行にも敏感だが、気まぐれですぐ飽きる。手軽に手に入るものは手軽な満足しか与えてくれない。いつも不満におびやかされている。そして機器の操作によって肥大した支配性、自己万能感。実は一寸故障しても手も足も出ないのだからこれも実に危うく、不機嫌に他人にあたりちらす。なんといっても消費者は王様なのだから、この体制では。

少々批判めいてしまったが、「昔はよかった」という気は毛頭ない。富国強兵の明治であれ、鎖国の江戸であれ、律令支配の貴族社会であれ、縄文であれ、常にその時代の矛盾を「前向き」に解決してきた筈である。年々10,000人以上死ぬからといって車のない社会には戻らないし、この情報と物の氾濫した社会を一気に旧に戻すことはできまい。ただ、お

いそれと変わってくれないDNAや生体がこれらにうまく耐えられるかが問題ではある。それとも謎の臓器の脳にはまだ余力があるのだろうか。不安は残るが「ある」と前向きに考えるしかないだろう。

さて、戦後の若者論はいくらか学術語を用いていても、修飾をはずせば、「最近の若者は困ったものだ」の嘆きである。若者に迎合する必要など全くないが、時代が産みだすものはある正当性を有し、その社会の誰もがその影響を受けていることを忘れてはならない。若者論の個々には触れないが、若者の行動のほとんどは時代の急速な変化への「適応作用」なのではなかろうか。適応の試みの中でいくらかは極端な例も現れるというだけである。大人の指示に従わない子供たちによって文化は変化してきたのである、多くの犠牲を伴いつつ。

たれ流し状態の情報を平然と見すごせないようでは1日として「正常に」すごせないのが現代である。地球規模のニュースが流され、戦乱や飢えが伝えられ、殺人事件の次にスポーツ情報が流される。芸能番組の次には深刻なドキュメントも報じられる。その上、番組の流れを寸断してCMがマインドコントロール的に働きかける。「TVが電波で操ろうとしている」とは妄想であるが、実在する作用を少しだけ誤って表現しているのである。きわめて異質なものが相接して流れ込む。連続した寸断性。しかも、そのリズムはどんどん早くなっている、分刻みのギャグと分刻みの視聴率調査。多くの領域でハイテンポ化している、TVのみではない。世の中

検・自己評価の導入等により、現在戦後最大の大学改革を進めているところであります。国立大学は、大学院の充実、学部、学科の改組をはじめとした教育研究体制の見直し、カリキュラムや教育方法の改善充実、生涯学習機能の強化等に積極的に取り組んでおり、第8次定員削減計画の策定時に比しても、教官の役割は従来以上に質、量ともに大きくなっております。

さらに、近年の大学を巡る環境の大きな変化及び社会の関心の一つに教育研究支援体制の問題があります。

我が国の学術、科学技術の発展のためには、国立大学の教育研究の発展が必要であり、そのためには教官はもとより、教務、技術、図書、医療、海事等に従事する教育研究支援職員の協力は必要不可欠であります。

そもそも、教育研究支援とは、教室系技術職員等による教育研究に対する直接的な支援から、事務職員等による図書業務、教務事務、管理の事務までの広範な内容を含んでおります。それは単に教育研究を補助するというものではなく、大学が大学であるための必須の基盤であり、技術職員等による研究実験用設備・機器の開発、実験・演習に対する支援やより高度化・複雑化した研究施設・実験設備の管理、実験装置使用法の指導、実験上の安全管理など教育研究に対する直接的な支援業務以外に、主として事務官が扱う教務事務、図書・情報サービス、教育研究資料の整理・保管、学外研究機関との連絡、研究費申請事務や研究費管理なども教育研究支援業務に含まれます。極言すれば、大学におけるほとんどすべての組織は、直接あるいは間接に教育研究を支援するためのものであります。

技術職員が定員削減により補充できないことは、何より研究者の活動を阻害し、教育上においても実験実習の実施を困難にし、ひいては、学生の理系ばなれの遠因ともなり国家の大きな損失ともなります。独創的な研究は、しばしば独自の実験器具・装置の開発・作製を必要としますが、こうした技術職員の消滅、特に若手技術職員の消滅は、教育研究組織の老齢化をもたらす、大学における特殊な技術の次世代への継承を不可能ならしめ技術の断絶を招くものであり、ハイテク技術の開発に支障をきたすな

ど日本の技術の将来に影響を及ぼしかねないものであります。これらの支援職員について定員削減が実施され続けられれば、極めて憂慮すべき事態となります。また、看護婦定員についても現場での必要数を大幅に下回っており、現在の看護体制は極めて深刻な状況にあります。

削減率について言えば、教官等への配慮の反面として支援職員の削減率が強化されてまいりましたが、技術職員、事務職員等の定員削減のため、全教官や大学院生が支援職員の行う業務を肩代わりせざるを得なくなっており、教官が本来の職務以外の業務に時間を割かれ、十分に教育研究ができない事態をもたらしております。また、それらを少しでもカバーするための非常勤職員の雇用は、貴重な教官の研究費の不足をもたらす、且つこれら職員の待遇問題など複雑な労務問題が生じております。

国立大学においては、すでにこれまでも厳しい定員抑制のもとで、学問・研究の発展に対応した分野増や社会の強い要請による対応についても、大講座化の導入やスクラップ・アンド・ビルドによる改組・転換等の措置により対処してまいりました。さらに、事務の簡素化・合理化、職員の能力向上、勤務能率の向上等にも努力してまいりなど定員削減の実施には最大限の協力をしてまいりました。

特に、大学入試、留学生、研究協力、国際交流の業務の大幅な増大に対処するため、各学部、学科等の人員を本部等に集中させるとともに業務を一元化して合理的に処理するための体制を整備する等の措置を講じてきております。

しかし、30年にわたる定員削減により、本来、教官数より多くあるべき支援職員数が教官数を大きく下回る現状は、もはや教育研究の質的水準の維持に関して人的にその限界に達していると言わざるを得ません。今後さらに定員を削減することは不可能と私どもは判断しております。

昭和42年度の定員削減計画開始前から見ると、我が国の高等教育の発展とともに、国立大学の数は75から98大学に増加し、大学の在学生数は、約27万人から58万人（平成6年度）に倍増し、21世紀初頭の留学生10万人受入れ計画の進行に伴って、我が国の国立大学に在学する外国人留学生の数も約18,000人（平成6年度）に激増しております。

これに対し、国立学校特別会計予算の教職員の定員の状況を見ると、新設大学の学生増や留学生の増加に対して教官等一定程度の増員は配慮されておりますが、他方、行政職俸給表適用者について見ると、昭和42年度の職員数は45,573人であり、その後の大学新設等に伴う新規増はあるものの、これらに対しても定員削減が課され、平成8年度までに合計23,338人の定員削減が行われており、これは各省庁全体の平均定員削減率をかなり上回っております。また、教職員一人に対する学生数は、教官は7.85人から10.05人に増加し、行政職俸給表適用者については6.75人から15.26人に倍増しています。

重ねて申し上げれば、教官定員や学生数から見て、国立大学の教育研究活動が飛躍的に拡大しているにもかかわらず、数次にわたる定員削減により、それを支援する体制が縮小し、国立大学の教育研究

体制を支える基盤が損なわれてきている現状にある上に、さらにその人員を多少とも削ぐことは、国立大学における学術研究の発展に多大な損失を与えることになりかねないものであります。

以上、国立大学協会は、関係当局に対し、国立大学教職員なканずく教育研究支援職員の職務の特殊性等を御勘案・御理解いただき、下記の諸点について格段の御配慮を賜るよう強く要望いたします。

記

1. 教官及び看護婦については、削減の対象母数から除外されたい。
2. 教育・研究の遂行に欠くことのできない教育研究支援職員のみならず、事務系職員についても教育研究支援職員として明確に位置付けて教官同様の配慮をされたい。

お知らせ

「白馬山の家」の夏季開設

本学の学生及び教職員の厚生施設として、例年夏季及び冬季に開設されている「白馬山の家」を、今夏も下記により開設しますので、ご利用ください。

この山の家は、中部山岳国立公園白馬山麓の梅池高原^{つがいけ}にあり、雄大な北アルプスの峰々に囲まれ、登山や避暑などに最適です。

なお、建物は山小屋風の木造地上2階、地下1階建で、間取りは1階が食堂兼談話室、2階が寝室、地階が浴室、乾燥室からなっています。

記

1. 名 称 京都大学^{はくぼ}白馬山の家
2. 所 在 地 長野県北安曇郡小谷村大字千国^{あずみ おたり ちくに}字柳久保乙869の2
(交通機関) JR大糸線「白馬大池駅」下車、松本電鉄バス「親^{おや}の原^{はら}」下車、徒歩約20分
3. 開設期間 7月10日(水)～8月20日(火)
4. 収容人員 26名
5. 所要経費 1人1泊 使用料120円、ほかに食費等実費
6. 申し込み及び利用に関する詳細

体育会事務室(西部構内総合体育館内、電話 学内2574)に照会してください。

(学生部)

「白浜海の家」の利用

本学の学生及び教職員の厚生施設として、「白浜海の家」を下記のとおり通年開設していますので、ご利用ください。

この施設は、三段壁をはじめ千畳敷・円月島など風光明媚な南紀白浜にあり、海に近く、夏は海水浴に最適のところです。

また、「海の家」のある理学部附属瀬戸臨海実験所構内には、500種以上の海の生物を集めた「京大白浜水族館」があり、さらに近くには「南方熊楠記念館」もあります。
(いずれも有料)

記

1. 名 称 京都大学白浜海の家
2. 所 在 地 和歌山県西牟婁郡白浜町 京都大学理学部附属瀬戸臨海実験所構内
(交通機関) JR紀勢本線「白浜駅」下車、明光バス「明光バス本社前」行きに乗車、終点で「臨海」行きバスに乗り換えて、「臨海」で下車
3. 開設期間 通年開設
4. 室 数 和室3室
5. 収容人員 30名
6. 所要経費 1人1泊 使用料120円、ほかに食費等実費
7. 申し込み及び利用に関する詳細
体育会事務室（西部構内総合体育館内、電話 学内2574）に照会してください。

(学生部)

体育館附設プールの夏季利用

本学の学生及び教職員は、体育館附設プールを下記により利用できますので、お知らせします。

なお、利用可能日等の詳細については、学生部学生課（西部構内総合体育館内、電話 学内2590）に照会して下さい。

記

期間 7月1日（月）～8月31日（土）（この間の40日程度）

時間 正午から午後2時まで

(注意)

1. 利用に際しては、必ず職員証または学生証を呈示して下さい。
2. 都合により利用をお断りする日があります。

(学生部)

総合人間学部・人間・環境学研究科事務部の一部移転のお知らせ

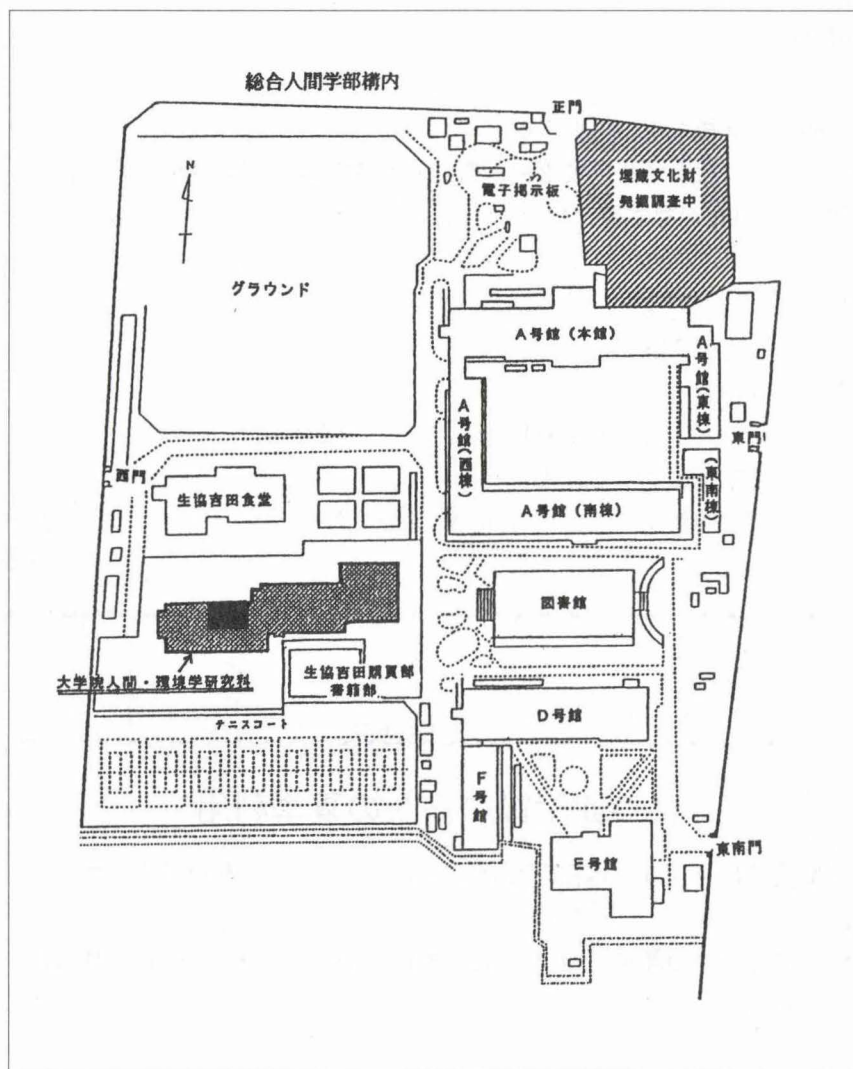
大学院人間・環境学研究科の新しい建物が完成したことに伴い、研究科担当の掛（総務掛及び大学院掛）を、新研究科棟1階に移転いたしましたので、お知らせします。

なお、研究科の研究部門は夏季休業中に移転の予定です。

電話番号の変更はありませんが、総務掛へのファックスのみ次のように変更となっております。

753-6898 → 753-2957

（総合人間学部・人間・環境学研究科事務部）



百年史編集委員会からのお願い

本委員会では、古い写真を収集しています。例えば講義風景、体育会・サークル活動、大学周辺の街並みなどの写真をお持ちの方は、ぜひとも来年刊行予定の写真集の編集に使わせていただきたく、ご協力のほどお願い申し上げます。ご協力いただける際は、百年史編集史料室（附属図書館4階、内線2651、2625）までご連絡ください。